

編集後記

□ コロナ禍でストレスが溜まる一方ですね。このような環境で、クレンジングによる口内トラブルで来院する患者が最近急増しているのをご存知でしょうか？ほとんど会話することなく、集中してテレビやパソコンの前にいることで、知らずに強く噛みしめてしまっていることが原因のようです。こういったトラブルについて、国民向けに分り易く解説しました（「歯の教科書 富士谷」で検索してみてください）。閑話休題。広報・編集委員会の担当副会長として2期目に入りました。時宜を得た特集や特別企画、あるいはニューフェローの個性溢れる論文やエッセーなどを毎巻お届けできるよう委員一同頑張っておりますのでよろしく願いいたします。（富士谷盛興）

□ まずもって、本号の発刊が例年より遅れましたことお詫び申し上げます。本年は早春からの新型コロナウイルス感染症発生蔓延により、冬期学会が中止となり、その後の総会認証式も中止となりました。その影響で冬期学会講演予定でありました住友、須田、齊藤の三先生にはご講演いただけず、そのため講演内容を認めて頂きました。また特別企画の「歯科この100の歩みと今後の展望」には、歯科矯正学を飯田先生、口腔外科を野間先生に、歯科補綴学を佐々木先生に、口腔インプラントを赤川先生にと、それぞれの学会の重鎮に寄稿して戴きました。さらに昨年の総会・認証式講演の山梨学院大学教授ウィリアム・リード先生の講演、年末集会での講演のサンマリノ共和国マンリオ・カデロ特命全権大使の講演、加えて2019年度入会の新フェロー10名の先生方からの寄稿と、掲載内容が大変ボリュームのある重厚なものとなりました。来年9月には延期された100周年記念祝賀会もあり100周年記念特別号として第52巻2号を発刊の予定です。本号発刊にあたりご協力頂いた皆様に心より感謝いたします。

（今村嘉宣）

□ 今年も残すところ数ヶ月となったが、年のはじめから世界的に感染拡大を続ける新型コロナウイルスの収束の見通しは、いまだにつかない状況である。現在を生きるわれわれにとっては、これまで経験した事がないほど日常の生活様式と行動の変化を求められた年といえよう。今回、改めて歯科医学の次世代への学問と医療技術の継承の方略について、様々な状況下における対応について考えさせられた。来年は、歯科医学の発展のため、受け身の対応ではなく、攻めの教育効果向上を目指したいものである。（佐藤 聡）

□ ICDの100周年の企画に微力ではあるが、携わることができて幸せでした。温故知新と言うが、先達の業績は今読み返してみても興味深く、情熱にあふれている。100年の歳月は人の人生よりも長い。また、次の100年に自分は何を残せるか、日々精進するのみである。

（弘中祥司）

□ 委員会に入れていただき、丸3年がたちます。委員長を拝命し、責任を感じております。雑誌がより充実し、学会HPがより役立つようになるよう、ICDの一員として貢献したいと思っております。個人的には、多くの学術大会や学会の委員会がWEB開催になり戸惑っています。広島からの単身赴任なのですが、帰りにくくなっています。人との交流が粗になりつつありますが、新しい時代の人間関係に慣れなくてはなりませんね。（佐藤裕二）

□ 2020年は、歯科業界だけでなく、日本いや世界中の業界にとって忘れられない年となりそうです。新型コロナウイルス、東京オリンピック延期等々マイナスなことだらけですが、どう捉えるかによって成長するかしないか大きく変わると感じます。『ウェルカムピンチ！』映画チアダンのモデルになった五十嵐裕子先生の言葉です。困難な状況だからこそ、先生方と共にこの困難を楽しみ、無理なく一歩ずつ前に進んでいこうと思っております。今後ともどうぞよろしくお願い致します。感謝を込めて…。

（白壁浩之）

2020年 9 月 15 日 印刷

2020年 9 月 25 日 発行

国際歯科学士会日本部会雑誌第51巻第1号

発行 一般社団法人 国際歯科学士会日本部会

〒161-8558 東京都新宿区下落合2-6-22

一世出版(株)内

TEL : 03 (3952) 5155

FAX : 03 (5982) 7751

E-mail secretary@icd-japan.gr.jp

発行者 隅田百登子

印刷所 一世印刷株式会社

東京都新宿区下落合2-6-22

TEL : 03 (3952) 5651

FAX : 03 (3953) 7751